

第5回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年1月21日（火）
午後5時30分～7時
会場：諏訪湖ハイツ
コンベンションホール

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 新構成員紹介

4 会議事項

(1) 第4回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 学びのイメージに係る意見交換

テーマ 「新しい学校が目指す姿」

① 産業界からの提言

岡谷商工会議所 副会頭 木下 敏彦 様

セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部

総務部長 宮坂 和幸 様

② 質疑応答

③ 意見交換

④ グループからの発表

5 その他

次回の予定 調整中

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会構成員名簿

| | 区分 | 氏名 (○：座長) | 所属等 | 役職等 | グループ |
|----|--------------|-----------|--------------------------|-------------|------|
| 1 | 自治体 | 藤澤 正 | 岡谷市 | 副市長 | 欠 |
| 2 | | 後藤 慎二 | 諏訪市 | 副市長 | A |
| 3 | | 宮坂 享 | 岡谷市教育委員会 | 教育長 | B |
| 4 | | 三輪 晋一 | 諏訪市教育委員会 | 教育長 | D |
| 5 | | 松崎 泉 | 下諏訪町教育委員会 | 教育長 | C |
| 6 | 産業界 | 木下 敏彦 | 岡谷商工会議所 | 副会頭 | A |
| 7 | | 白鳥 和美 | 諏訪商工会議所 | 副会頭 | 欠 |
| 8 | 学識経験者 | ○市川 純章 | 公立諏訪東京理科大学 | 地域連携総合センター長 | 座長 |
| 9 | 地域 | 宮坂 和幸 | セイコーエプソン株式会社 人的資本・健康経営本部 | 総務部長 | B |
| 10 | | 高林 千幸 | 岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや) | 館長 | D |
| 11 | | 竹花 顕宏 | 諏訪地域振興局 | 局長 | 欠 |
| 12 | 同窓会 | 小松 壮 | (一社) 岡谷工業高等学校同窓会 | 理事長 | E |
| 13 | | 増澤 義治 | 諏訪実業高等学校同窓会 | 会長 | D |
| 14 | P T A | 佐藤 亨 | 岡谷工業高等学校 P T A | P T A 会長 | A |
| 15 | | 芳澤 秀樹 | 諏訪実業高等学校 P T A | P T A 会長 | B |
| 16 | | 笠原 康弘 | 岡谷市 P T A 連合会 代表 | 会長 | E |
| 17 | | 竹野入将宏 | 諏訪市 P T A 連合会 代表 | 会長 | C |
| 18 | 小中学校等 関係者 | 櫻井 洋 | 諏訪小学校長会 代表 | 長地小学校長 | 欠 |
| 19 | | 河手 正彦 | 諏訪中学校長会 代表 | 諏訪中学校長 | 欠 |
| 20 | | 高坂慎太郎 | 諏訪養護学校 | 教頭 | C |
| 21 | 再編対象校 | 中嶋 健太 | 岡谷工業高等学校 | 生徒会長 | D |
| 22 | | 村田 秀斗 | 岡谷工業高等学校 | 生徒会副会長 | B |
| 23 | | 弓削 俊宏 | 岡谷工業高等学校 | 校長 | C |
| 24 | | 清水 哲 | 岡谷工業高等学校 | 教職員 | A |
| 25 | | 濱 蒼太 | 諏訪実業高等学校 | 生徒会長 | A |
| 26 | | 西川 みく | 諏訪実業高等学校 | 生徒会副会長 | C |
| 27 | | 加藤 泰久 | 諏訪実業高等学校 | 校長 | E |
| 28 | | 松下 明世 | 諏訪実業高等学校 | 教職員 | B |

【事務局】

| 学校名 | 氏名 (役職等) |
|----------|----------------------------------|
| 岡谷工業高等学校 | (教頭) 飯島健二 |
| | (教諭) 御子柴 久雄、原 克明、山口 隆、飯島 昭雄、清水 哲 |
| 諏訪実業高等学校 | (教頭) 楯 和弘、(定時制教頭) 三間 美奈子 |
| | (教諭) 服田 洋介、松下 明世、小川 淳子 |

| | 氏名 | 所属等 | 役職等 |
|--------|-------|---------------|--------|
| 県教育委員会 | 井出 敦 | 高校教育課 高校再編推進室 | 主幹指導主事 |
| | 宮嶋 直美 | 高校教育課 高校再編推進室 | 主任指導主事 |
| | 山崎 巖 | 高校教育課 高校再編推進室 | 主任指導主事 |
| | 三木 舞子 | 学びの改革支援課 | 主任指導主事 |

第4回 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

| | | | |
|-------------|---|------------------------------|-----------|
| 日時 | 令和6年11月13日(水) 18時00分～19時30分 | | |
| 場所 | 諏訪市文化センター2F第2集会室 | | |
| 出席 (敬称略) | 藤澤正、後藤慎二、宮坂享、三輪晋一、松崎泉、白鳥和美、◎市川純章、高林千幸、竹花顕宏、佐藤亨、芳澤秀樹、笠原康弘、竹野入将宏、櫻井洋、河手正彦、武田怜也、牛丸瑠介、弓削俊宏、清水哲、小林愛友、盛咲穂、加藤泰久、松下明世、樋口葵衣 以上24名 | | |
| 欠席 (敬称略) | 木下敏彦、窪田美彦、小松壮、増澤義治、高坂慎太郎、以上5名 | 傍聴者 | 6名 報道関係5社 |
| 事務局 | 岡谷工業高校 | 飯島教頭、御子柴教諭、山口教諭、飯島教諭 | |
| | 諏訪実業高校 | 楯教頭(全日制)、三間教頭(定時制)、服田教諭、小川教諭 | |
| 当日資料 | 第4回懇話会資料、会場配置図 | | |

会議事項

- (1) 第3回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめについて
- (2) 学びのイメージに係る意見交換 テーマ「新しい学校が目指す姿」
- (3) 懇話会の運営について
- (4) その他

学びのイメージに係る意見交換(概要)

- (1) 第3回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (⇒ 意見なし 承認)
- (2) 学びのイメージに係る意見交換 テーマ「新しい学校が目指す姿」

① 産業界、高等教育機関からの提言

諏訪商工会議所 副会頭 白鳥和美 氏

- ・多様な価値観の時代であるからこそ、学校に行く意味が重要

社会の縮図としての学校で、困難や人間関係を唯一学べるのが高校時代である。子どもが本当に学びたいと思う何かを提案できるような学校を新設することができたらと考えている。

- ・時代の変化の中で、専門性を活かし子どもたちが夢を描ける学校

他分野のいろいろな専門性のある学校が一緒になる。起業できる子どもを育てることは、これからの社会に重要。全ての子どもが起業するわけではないが、子どもたちの夢になれるような学校作り。企業の立場では、できればこの地で学んで、すぐにこの地で働いてほしいと思うが、それは大人のエゴで、子どもたちの未来を考えたときに、さまざまな選択肢があるということもとても大事だと感じる。

- ・街づくりの一環として教育に係るべき企業の責務

企業の立場で職場体験、インターンシップを積極的に受けいれている。手間も時間もかかるが、子どもたちを育てるためには企業も協力して、街づくりの一環として教育にも関わらなくてはならないと感じている。諏訪地域の産業、企業の良さを肌で体感してもらい、私たちの姿を見て地域に貢献をしたいと感じてもらえたら嬉しい。

- ・最後に、

大人が社会課題を落とし込んで、子どもたちが地域の問題や社会問題解決について提言する授業もあるが、大人の作った問題に対する解決策を子どもに問うのではなく、子どもが住みたい未来を語るテーマを大人が提供しなくてはならないと感じる。

公立諏訪東京理科大学教授 市川 純章氏

<提言>

- ・将来の目標が見つけれられる様々な機会を提供する。
- ・総合的な体験を重視し、さらなる専門性は進学先で得る。
- ・意図的に「適度な不便」と「創造的な課題」を教育に取り入れる。

学校教育のミッションは、人がより良く生きる力と社会性を身につけるためのシステムである。使いやすく安全で完成された現代は、考える機会が減少し問題解決能力や創造性を育む機会が失われつつある。生きていくためには課題解決力が必要である。様々な体験を通じて「学ぶ意味」を発見できる。高校時代は専門性を追求する前の「広い視野」を形成する時期。総合的な体験を多く取り入れて、専門の学びの必要性に気づくことが必要。思考力は総合的な体験で気づくことができる。機会を与えて何度も問うことが必要。課題解決に挑戦し、学ぶ必要性を知ることで、意欲と目標につながる。ロールモデルと出会い、人生のリアルな目標を持ち、レジリエンス、他者を頼る力、他者を手伝う力、チームワーク力を伸ばす。

【 質疑・応答 】

質問：子どもたちの「社会的な体験」について今後どのような形になればよいか。

白鳥副会頭→専門性の高い企業の人を先生にして学校にどんどん入れていく。視察したアメリカでは科捜研のOBが化学の授業をしていた様子を見た。

市川教授→現在、高校における社会的体験が不十分なので、大学で地域連携プロジェクトなどいろいろやっている。

高校でやっていけば、大学は座学中心にできる。地域をフィールドにした学びを地域ぐるみでやってほしい。

② グループワークまとめ グループからの発表

Aグループ

専門性や技術の重視/それぞれの専門性から授業を選べる自由/企業や大学とつながり社会から学ぶ/ダイナミックに何かに取り組む人間性

Bグループ

学校内外での体験、地域に飛び出しているいろんな体験ができる学校/先生が押し付けるのではなく生徒が自主性を持った学校/科を変えなくても科を飛び越えた学びのシステム

Cグループ

自己肯定感や自己有用感をつくれるような学校/地域社会と関わりを持って諏訪にしかない学校作り/専門性を学べる生徒が輝けるような学校

Dグループ

企業側からは挑戦し続ける社員であってほしい/地域密着で地域に愛着を持てるような場所が学校であってほしい
諏訪に柱になる事業が少ないが農工商の素材はそろっているので仕組みやプログラムを作って観光に生かしたらよい

Eグループ

生徒同士でしっかりコミュニケーションをとりフレッシュな発想で学ぶことができる学校/自分の目標を持って先生に頼らず自分たちで課題発見解決ができる生徒/専門を横断的に学びオールラウンダーの育成/失敗してもいいからどんどんチャレンジさせてくれる学校

座長

様々な意見が出たが学び続ける力が必要である。技術や状況は変化していく。高校で学びを完成させるのではなく専門を道具にして、体験ができる学校、既存の枠にこだわらずチャレンジし新しい形を提案していけるように、次回の懇話会につなげていきたい。選出の母体で、懇話会の話し合いを話題にして、様々なアイデアを持ち寄ってもらいたい。

(3) その他 生徒代表構成員の任期終了に伴う挨拶

- ・最初はあまり関係ないと思っていたが、懇話会でこんなにも考えてくれているので、自分も真剣に考え、後輩のためにどういう学校がいいのかを考えて参加した。
- ・二つの高校が合併すると、大きくなり困ると思っていたが、懇話会で子どもたちのことを考えてくれている大人の皆様や、将来に期待してくれる皆様がいるということを強く感じた。これから未来の生徒たちが輝けるような学校になったらいいなと思っている。
- ・今の学科の学びに魅力を感じて入学したので、統合しても残してほしいと思った。またお互いの学校を、生徒同士が知る交流をこれからもっと増やした方がいいと思う。学校全体の生徒がこの会議のような話を聞ける場もあった方がいいし、統合したときにどんな学校にしたいか生徒目線でわかることの方が多く思うので、お互いが交流し話し合っ決めていけたらいいのかなと思う。
- ・合併するのが先なので、自分たちには関係ないと思っていたが、皆さんがとても真面目に考えてくださっていて、ありがたいと思ったし、来年以降の話し合いで、より良い学校という合併ができたらいいなと期待している。
- ・最初は緊張して話を聞くことしかできなかったが、高校生にしか見えないものや、わからないことがあって話し合いの大切さを感じた。人前で自分の意見を話すことが苦手だったが、会が終わるたびにお褒めの言葉をいただけて、自分の意見に自信を持つことにも繋がった。話し合いに参加して、これからの時代に合うような学校ができていくのかなと思うとすごく楽しみになった。

座長

大人のパッションが伝わったということがある。後輩に伝えてもらい、校内でも議論をして懇話会に持ってきてもらってすすめていければと思う。変えていけるチャンスなので、一緒に作っていきたい。

(4) 懇話会の運営について 事務局提案 懇話会を午後5時半から7時とする (⇒ 意見なし 承認)

その他

【次回】

- ・日時：令和7年1月21日(火) 午後5時30分～7時(予定) ・場所：諏訪湖ハイツ コンベンションホール
- ・内容：学びのイメージに係る意見交換

第5回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

学びのイメージに係る意見交換

テーマ「生徒がどんなことができる学校にしたいか」

～こんな学びをしてみたい、こんな学びがあったらいいな～

I 産業界からの提言

これからの時代に育てたい力や、目指したい学校の姿、それらを実現するための学びの提言をいただき「新しい学校が目指す姿」や「新しい学校の中身」の話し合いのヒントとする。

岡谷商工会議所

副会頭 木下 敏彦 様

セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部

総務部長 宮坂 和幸 様

II 質疑応答

III 意見交換（グループワーク）

① ・ 生徒がどんなことができる学校にしたいか（学校の中身）

～「こんな学びをしてみたい、こんな学びがあったらいいな」など具体的なアイデア～

・ 第4回で出された意見に付け加えたいこと

② 「育てたい生徒像」「目指す学校像」で特に大切にしたいことを

グループで話し合う

* 「なぜそのように考えるか」をキーワードに、議論を深めたいと思います。
さまざまな背景も含めてご意見をお願いします。

IV グループからの発表